

# 営農情報



詳しくはお近くの下記事業所までお問い合わせください。

- 東尾道営農センター ☎0848-56-1231
- 尾道北営農センター ☎0848-29-9611
- 向島営農センター ☎0848-44-2106
- 因島営農センター ☎0845-25-6161
- 世羅営農センター ☎0847-25-5029
- 浦崎支店 ☎0848-73-3311
- 御調支店 ☎0848-76-2242
- 世羅西支店 ☎0847-37-7100

## 水稲

南部地区の中生品種の田植え作業も終わり、北部地区の早生品種では中干しを開始する時期となりました。

本格的な梅雨シーズンの前に、生育状況の確認や今後の管理作業について確認をしておきましょう。

### 【病害虫防除】

本田での病害虫防除の第一段階として、田植え時に実施した箱処理剤の効果は、田植え後60日程度です。

効果が弱まる時期にいち病の感染拡大

大条件が重なること、穂もち発生リスクが高まるため注意が必要です。

ただし、第2段階の防除となる出穂前防除は、粉剤や液剤を利用する場合があります。散布日が天候に左右されます。時期を逸しないよう注意してください。

### 【中干し】

中干しの効果は『倒伏防止』、『根の健全な育成』、『無効分げつの抑制』等があります。表①を参考に、1㎡当たりの茎数350本を確保できたら実施してください。

中干しの期間は、圃場条件、天候等によって異なりますが、7〜10日間程度実施し、田面に少しヒビが入る程度まで行いましょう。

表①

| 植付間隔             | 1株当たりの分けつ<br>茎数の目安 |
|------------------|--------------------|
| 幅30cm×<br>条間18cm | 20本                |
| 幅30cm×<br>条間24cm | 25本                |
| 幅30cm×<br>条間30cm | 30本                |

また、この時期の高温多照は分げつ過剰を引き起こし、穂数及び粗数過剰によって品質低下を招くことがあります。

その場合は、中干し時期を早めることにより分げつの過剰発生を抑えます。

中干し後は、いきなり圃場に水を入ればなしにすると、根腐れを発生させ

る心配がありますのでかけ流しや浅水状態で管理し、間断灌漑を行い、根を水に慣れさせるようにしてください。

幼穂形成期〜出穂期には、水が最も必要な時期です。粗数の維持に努めましょう。

また、幼穂形成期(出穂の25日前)の葉色を確認しましょう。薄いようでしたら、一発肥料を使用した圃場においても追肥の要否判断をおこなってください。

### 【雑草防除】

イネは雑草の影響や害を長期にわたって受けます。水管理や除草剤の適期使用により、雑草の発生を抑制しましょう。

ポイントには、どの雑草においても『生育初期』が必ず存在するということです。早期に対処することで、被害拡大を抑えることが可能となります。発生が確認された場合は中後期除草剤を活用し、防除を実施してください。

### 【災害対策】

豪雨災害等による圃場の被害確認は、二次災害を招く恐れがありますので、まずは身の安全確保が最優先となります。安全が確認されてから圃場、水路等の点検作業を行ってください。

圃場に冠水の被害が発生した場合は、早急に排水に努め、1枚の葉でも早く水上に出すことで被害を軽減することができます。

また、水温の上昇抑制や濁水の排出の

ため、清水をかけ流しながら行うと効果的です。

冠水が激しかった圃場では、気孔や傷口から稲白葉枯病菌が侵入する可能性があります。発病した場合、最大40%の減収となる可能性もありますので注意が必要です。排水後、オリゼート粒剤(3〜4kg/10アール)を散布してください。

## 柑橘

6月は黒点病の重点防除時期です。ジマンガイセンの残効は累積降雨250mmもしくは30日です。防除とあわせて枯れ枝の除去を徹底しましょう。

### 【新梢の間引き】

本年度は新梢が多く発生し、薬剤がかりにくい状態の樹が多く見られます。マシン油散布前に新梢の間引きを行います。

### 【中晩柑類の荒もぎ摘果】

大玉果実生産には、荒もぎ摘果の時期と量が大切です。生理落果の終了する6月下旬頃から品種ごとの適正葉果比の8割を目安に摘果しましょう。また、摘果と兼ねてかぶさり枝や込み入った枝を間引きしましょう。

◆八朔・紅八朔葉果比80〜100枚に1果  
荒もぎ摘果終了時に、大きい麦わら帽

摘果の目安

| 品 種        | 残す果実           | 落とす果実        | 葉果比    | ポイント                 |
|------------|----------------|--------------|--------|----------------------|
| ネーブル       | 5～6枚の総状有葉果の2番果 | 直花果、扁平果、へそ大果 | 80～100 | 裂果しやすい果実を摘果する        |
| ハ 朔<br>甘 夏 | 5～8枚の単生有葉果     | 直花果、裾なり、腰高果  | 80～100 | ヤニ果に注意する             |
| デコボン       | 5枚以上の単生有葉果     | へそ大果、扁平果、遅れ花 | 100    | 主枝先端全摘果<br>6月に1発摘果   |
| は る み      |                | 直花果、内なり果、キズ果 | 80     | 隔年結果是正は半樹摘果が有効       |
| 清 見        |                | 直花果、内なり果     | 80～100 | 摘果時に芽つみを実施           |
| は る か      |                | 内なり果、裾なり、天なり | 80～100 | 果実周辺のトゲ切り<br>天成り果実摘果 |
| レ モ ン      |                | 傷 果          | 30     | 引つ付いた果実摘果            |

子の範囲に2～3個着果させます。

また、摘果時はハサミを使用して摘果しましょう。流れヤケ防止に枯れた果梗枝は摘み落としましょう。

◆しらぬび(葉果比100枚に1果)

6月下旬に適正葉果比まで摘果し、大玉で酸の低い果実生産を行いましょ。樹勢維持のため、主枝先端は全摘果しましょう。

摘果の目安は、野球帽の範囲に1～2個着果させます。

◆はるみ(葉果比80枚に1果)

はるみは生理落果が少ない品種です。



▲単性有葉果 (新芽の先に1個果実がついているもの)  
中晩柑類 (ネーブルを除く) は5枚～8枚の単性有葉果が品質果実になります

そのため適正着果量まで摘果できず、次年度不作になる園地が多くなっています。

はるみが毎年生らない人は半樹摘果方法を取り入れましょう。方法は豊作年のはるみに対し樹の半分を全摘果します。

着果させる側は葉果比80程度にします。

◆中晩柑類の薬剤摘果

果実の平均横径が20mm程度の時、ターム水溶剤1,000倍を散布することにより小玉だけを落果させることが出来ます。詳細は指導員にご相談ください。

【灌水】

中晩柑類は10日以上降雨が無い場合、10アール当たり20～30mmの灌水を実施しましょう。

みかんは満開後60日まではしっかりと灌水しましょう。満開6～100日の間は節水管理しましょう。

【夏肥の施用(2回目)】

果実肥大促進のため、梅雨が明ける前に施用しましょう。BB元気200を使用した園地では、夏肥の2回目は施用の必要はありません。極早生・早生みかんは施用しません。

【病害虫防除】

◆黒点病

黒点病防除剤のジマンダイセン水和剤は、累積降雨250mmもしくは散布後30日が再散布の目安です。早めの防除を心がけましょう。

◆ミカンハダニ

ハーベストオイルを葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。ジマンダイセンを混用散布する場合は、乾きやすい日に散布しましょう。

◆ヤノネカイガラムシ

近年、ヤノネカイガラムシが増加傾向にあります。多発すると全滅が極めて困難になりますので、トランスフォームフロアブルで防除しましょう。



▲ヤノネカイガラムシ

◆レモンの花アザミウマの防除

6月から7月上旬頃に発生し、甚大な被害が出ることがあります。遅れ花をよ



▲レモンの遅れ花に飛来したアザミウマ



▲アザミウマ被害

く観察し多発の場合は、スピノエースフロアブル等で防除しましょう。

◆ゴマドラカミキリ対策

モスピラン顆粒水溶剤400倍を主幹から株元へ散布します。いじりは被害を受けやすいので注意しましょう。

◆ミカンナガタマムシ

柑橘の樹皮の割れ目などに産卵し、ふ化した幼虫が形成層の部分に沿って食害するため、多発すると健全な木も枯死します。成虫による葉の食害が目立つ場合は、6月中旬にアクセルフロアブルを散布しましょう。

ミカンナガタマムシ



▲成虫



▲成虫による葉の食害



▲幼虫

【八朔ヤニ果対策】

八朔のヤニ果は、ホウ素欠乏が原因と言われています。欠乏の原因は、乾燥や土壌PHが高過ぎるもしくは低過ぎるのが原因です。灌水や土壌管理を徹底しましょう。また、毎年発生が多い園ではマ

ルポロン800倍を6月と7月に葉面散布しましょう。



▲幼果期のヤニ果



▲収穫期のヤニ果

## 落葉果樹

### ぶどう

#### 【露地栽培】

##### ◆房づくりと着果量調整

着果量(房)が多いと肥大不良・糖度不足・着色不良を招きやすくなります。2回目のジベレリン処理前までに摘粒・摘房を行ってください。

##### ◆新梢管理

新梢は開花後一時的に弱くなり、結実後再び伸長を始め、果粒軟化期ごろに伸長を停止するのが理想的です。

開花前後から副梢が発生し始めますが、副梢は果実の成熟期には本葉よりもよく働きます。副梢は1〜2枚葉を残して摘みし、果実品質を向上させるために利用しましょう。

実止まり確認後の防除には、展着剤をいれると果粉が落ちるので使用を控えま

表-1 (房作りと収穫の目安)

| 品種        | 1房粒数   | 1粒重   | 1房重      | 1坪当たり房数 | 10a当たり房数     | 着色始めからの日数 | 糖度    |
|-----------|--------|-------|----------|---------|--------------|-----------|-------|
| デラウェア     | 100粒   | 1.4g  | 140g     | 35~40房  | 12,000房      | 30日       | 18度以上 |
| ベリー-A     | 70粒    | 6g以上  | 400~500g | 18~20房  | 5,000房       | 40~45日    | 17度以上 |
| ピオーネ      | 30~35粒 | 17g以上 | 500~600g | 10      | 2,500~3,000房 | 45日       | 17度以上 |
| シャインマスカット | 35~40粒 | 15g以上 | 550~650g | 12      | 3,000~3,500房 | 45日       | 17度以上 |

### もも

しょう。

収穫に際しては、果実の着色程度をよく確認して、適期の収穫を行います。収穫は、午前中の気温が低い時間に行い、置き場も果実温度が上がらないように注意しましょう。

収穫期に入っでの降雨は、果実品質低下を招くので、マルチ被覆、排水溝の整備をして園内の排水を良くしましょう。

##### ◆注意する病害虫

シンクイムシ類、モモノゴマダラノメ

イガ、灰星病、黒星病、赤点病



▲シンクイムシ被害

### いちじく

#### ◆副梢の整理

摘みした後に副梢が発生します。副梢をそのままにしておくと、果実の着色不良や、肥大遅延を引き起こしますので、発生した副梢は、結果枝の先端1本を残し、2〜3枚で再度摘みを行います。その後再び発生する副梢は、随時かぎ取りましょう。

副梢の発生が多い樹(園地では)、剪定や肥培管理などを再検討する必要があります。

#### ◆灌水

梅雨明け後の灌水は、いちじくにとって果実肥大や収量などに大きく影響します。梅雨明け後、乾燥した日が続くとき玉果やヤケ果、更には早期落葉などの原因となりますので、晴天が続くようであれば3〜5日おきに灌水を行います。

#### ◆乾燥防止対策

梅雨にしっかり雨が降ると、いちじくの根も土壌表面に集中しています。梅雨

明け直前に、表層根の保護と乾燥防止のために、敷きわらなどの被覆資材を設置しましょう。

#### ◆注意する病害虫

カミキリムシ類、アイノクイムシ、ハダニ類、さび病、そうか病、イチジクモンサビダニ、イチジクヒトリモドキ



▲ハダニ被害

### なし

#### ◆摘果

3果そうに1果の割合になるように摘果します。横向きか斜め上向き、果梗枝が太く長いものを残すようにしてください。主枝と垂主枝の先端部分の果実は、全部摘果してください。

#### ◆灌水

なしは、灌水により玉太りが良くなりますので、しっかり灌水してください。

## 家庭菜園

6月、7月の気温は、平年に比べ高くなる見込みです。

また、本格的な梅雨入りを迎え、病害虫が発生しやすい時期にもなります。天気予報などを参考にして適切な管理を行いましょよう。

また、作業の時には水分補給をしつかり行いましょう。

### 【梅雨対策】

露地栽培の場合は畝や畑の周りに溝を掘り、排水を促しましょう。また、可能であれば藁やもみ殻を株元に敷くと、雨水による土の跳ね返りを防ぐことができます。そのため、病気の予防効果が期待できます。

### 【品目ごとの生育診断】

#### ◆トマト

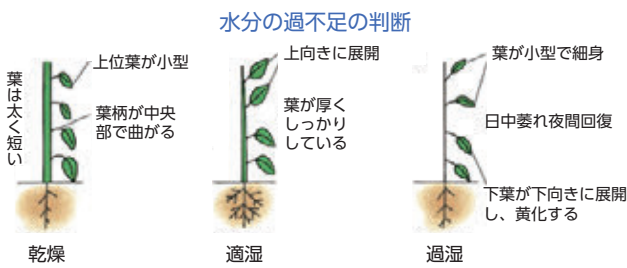
トマトは、茎の先端の葉で草勢判断が



葉は上に向いて細く、葉脈が紫変する。

葉面が水平になる。

葉面にでこぼこができ、葉はカールする。



### 水分の過不足の判断

上位葉が小型  
葉柄が中央部で曲がる  
葉は太く短い  
乾燥

上向きに展開  
葉が厚くしっかりしている  
適湿

葉が小型で細身  
日中萎れ夜間回復  
下葉が下向きに展開し、黄化する  
過湿

花が生長点の近くで咲く時や、花がほ

水分を与えましょう。

#### ◆ピーマン

根が浅く乾燥しやすいので、こまめに水を与えましょう。綺麗な実を作るには、適切な水管理が重要です。乾いたところに急に水が入ると実が割れ、水分が不足した状態が続くと実が太らず皮が固くなってしまいます。また、灌水不足は尻腐れ症の原因にもなりますので注意しましょう。



不良

要注意

良好

とんど落ちてしまう場合は、肥料不足と判断します。実を若取りし、追肥と灌水をおこないましょう。

#### ◆ナス

収穫期間が長いので、生り疲れさせないように、実が生り始めたならこまめに肥料と水を与えましょう。花の咲いている位置から生長点までの葉数で草勢を判断します。

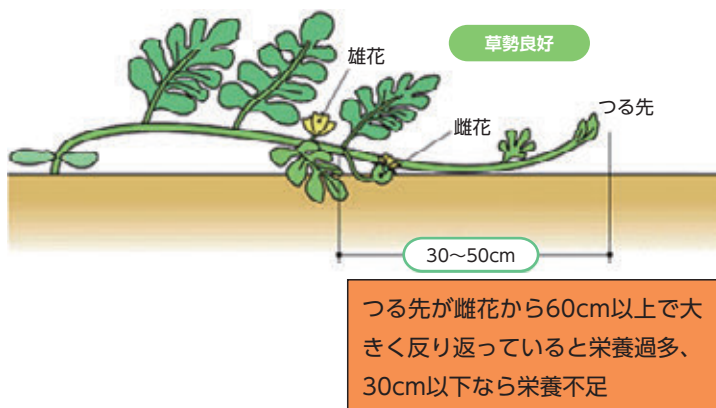
また、新しく咲いた花の柱頭が短い場合、樹勢が低下しているので追肥を施しましょう。

#### ◆スイカ

生育初期に肥料が多すぎると実が落ちてしまいます。

着果から2週間で果実は急速に大きくなります。この時期に水をたっぷり与えると大きなスイカになります。

交配(着果)から収穫までの日数は、大玉スイカで45~50日、小玉スイカで35日~40日を目安とします。



草勢良好

30~50cm

つる先が雌花から60cm以上で大きく反り返っていると栄養過多、30cm以下なら栄養不足